

令和 2 年 9 月 12 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02322

研究課題名(和文) ワイルド裁判後のイギリス性科学の展開と文学 ―エリス、シモンズ、カーペンター―

研究課題名(英文) Sexology and Literature after the Wilde trial : Havelock Ellis, J.A. Symonds, and Edward Carpenter

研究代表者

宮崎 かすみ (MIYAZAKI, KASUMI)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：10255200

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ワイルド裁判の前後に展開されたイギリスの同性愛研究や同性愛をめぐる言説と性科学の展開をたどった。具体的にはエリス、カーペンター、J.A.シモンズの知見と思想を関係性から分析して、ポスト・ワイルド時代のイギリスにおける同性愛史に新しい知見をもたらすことができた。またイギリスの性科学の展開を補強する視点として、先駆者であるクラフト・エビングの性科学研究史も対象とし、シモンズとの交流を明らかにし、大陸とイギリスとの性科学の関係に光を当てた。その際、同性愛の病理モデルの根源である変質論に対するそれぞれの態度の相違に注目した。ワイルド本人の書簡の翻訳も合わせて行い近く単行本として刊行する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シモンズがエリスを誘い協力して完成したイギリス性科学の画期的著作である『性的倒錯』に、中途での急死と遺族の意向からシモンズの名前が削られたという、イギリス同性愛史の重大な事実の背後にあった二人の思想的確執を明らかにした。また、これまでシモンズと繋げられることのなかったカーペンターとの関係を掘り下げたことにより、シモンズがエリスに抱いていた違和感が明らかになり、またエリスとは異なる方法で同性愛の病理説を覆そうとしていたことも解明し、ワイルド裁判後のイギリス同性愛史に新知見をもたらす成果となった。またワイルドの書簡集を刊行予定であるが、これによりこの研究の一端を広く社会に発信することができる。

研究成果の概要(英文)： This project focused on the development of sexology on homosexuality in Britain around the Wilde trial, leading to the publication of Sexual Inversion, the first scientific book. Specifically, it analysed the discourses of Ellis, J.A. Symonds, and E.Carpenter from the point of their relationship.

It brought about new information, which shed light on discord between Symonds and Ellis, as the latter supported the pathological model of homosexuality. Symonds found possibility to overcome it in the custom on homosexuality of the Ancient Greeks. His hope that his study on the Greek homosexual model would be taken into the book, Sexual Inversion, did not come true because of his sudden death. After his death Ellis continued the project and published Sexual Inversion with his name alone, which caused him to be the leading scholar of sexology in Britain. This project revealed that Symonds was the true and first scholar of sexology and his successor was Carpenter, not Ellis.

研究分野：英文学、比較文学

キーワード：同性愛 イギリス同性愛史 性科学 ハヴロック・エリス J.A.シモンズ エドワード・カーペンター  
リチャルト・フォン・クラフト・エビング オスカー・ワイルド

## 1. 研究開始当初の背景

当該研究は、宮崎が2013年に刊行したオスカー・ワイルドの評伝『オスカー・ワイルド「犯罪者」にして芸術家』(中公新書)の成果から構想されたものである。本書で宮崎は、ワイルド裁判までに至るイギリスおよびヨーロッパの同性愛の歴史を、変質論という思想史の視点を絡めて整理した。その歴史の中にワイルドの同性愛の問題を位置付けたが、これは、ワイルドの同性愛について、その生涯を通して考察した日本では最初の仕事となり、一般書とはいえ、学問的な価値は小さくなかった。そこで、ここで得られた知見を、さらに学問的に洗練し、かつ整理して発表し、研究者間で共有する必要性を感じた。

さらに、あまり知られていない変質論という思想が、同性愛の理解にまで関わっていたという事実を深く調べて展開し、広く共有するべきと考えた。とりわけ裁判で有罪が確定して、収監されてからのワイルドをどう取り扱うかという問題から、当時のイギリスとヨーロッパの同性愛理解の乖離という重要な側面が浮上した。上記書籍を執筆するなかで浮上した問題点は、同性愛の歴史のみならず、当時のヨーロッパ思想にまで連なる重要な問題を孕んでいることに気づき、この問題を深く研究する必要性を痛感していた。

また、ワイルドの処遇で明らかになったイギリスの同性愛をめぐる状況一般から、その後、エリスやカーペンターといったイギリス同性愛の初期論客がいかにして彼らの論を形作っていたのかを解明する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究はワイルド裁判後のイギリスにおける性科学思想の展開を英文学との関連から追い、20世紀の同性愛概念成立に至るまでの全容をできるかぎり解明しようとした。ワイルド裁判時、イギリスが性科学の普及でヨーロッパ諸国から遅れをとっていたことは、前期著作において重要な論点であったが、本研究課題ではこの問題をその後の性科学の展開へと引き継ぎ、また大陸の性科学との連携の解明も目指した。

本研究では、イギリス性科学者の異端児にして確立者と見なされるハヴロック・エリス、エリスの影に消されてしまった異色の同性愛研究者であるJ.A.シモンズ、そして社会主義者でエリスの友人であったエドワード・カーペンターに焦点を当て、それぞれの同性愛に関する知見、および相互の影響関係を解明しようとした。

そのほか、イギリスの同性愛概念の受容史の一端がワイルド収監の扱いから明らかになってきたのであるが、それに関わる重要人物であるウィリアム・モリソンという聖職者が、ハヴロック・エリスと並ぶ、ロンブローゾの生来性犯罪者説の紹介者であった。そのことから本研究では、変質論と生来性犯罪者説のイギリスでの関わりを解明しようとした。

## 3. 研究の方法

本研究課題は、歴史および思想史研究の一環として文学テキストを扱ったため従来の文学研究の手法は採用しなかった。上記の当該人物の書簡や当時の資料を重視し、手稿資料も研究対象として、資料の収集にあたるという、歴史的なアプローチをとった。テキサス大学オースティン校のハリーランサム・センターにおいて、J.A.シモンズとハヴロック・エリスの往復書簡などを収集し、文学テキストを取り巻く環境の歴史性を重視した。

その一方で、イデオロギーの生成過程を明らかにしてくれるものとして文学テキストにアプローチした。思想と作品の呼応関係、そして一般への伝播・浸透を解明するために、変質論と推理小説の提携関係の分析においては、当時の人気探偵小説であったシャーロック・ホームズ・シリーズの分析を行った。

また、ワイルド裁判後のワイルドの書簡の重要性を鑑み、これを編集した上で翻訳・刊行し、一般社会への還元を目指した。ワイルドの書簡は、内務省宛ての減刑嘆願書を始めとして、当時の同性愛についての第一級の一次資料である。これを広く社会に提供することで、LGBTの問題が広く論じられる現在、ワイルド研究者以外の利用に資するものとなることを目指した。

## 4. 研究成果

まずは、日本オスカー・ワイルド協会の学術雑誌『オスカー・ワイルド研究』に、「ワイルド裁判の歴史的位相」という論考を投稿し、従来の、ワイルド裁判がイギリスにおける同性愛概念確立の画期である、という通説を覆した。これはイギリスの研究者、ジェフリー・ウィークスが言い出し、シンフィールド、プリストウ等多くの追隨者を得ていた通説であるが、間違いであったことを論証し、日本の研究者コミュニティでの知見の共有に至った。また、この研究では、イギリスにおける性科学および同性愛の受容史を整理した。

J.A.シモンズの研究と業績を解明するために、クラフト エビングの性科学にまでさか

のぼり、性科学という学問における「自己の性愛の履歴」を語るという、特殊な言説について研究した。また、これにより、シモンズとクラフト エビングに交流があったことを明らかにした。

またエリスの名しか記されない『性的倒錯』（1897年）が、シモンズの発案であり、彼がエリスに声をかけて実現したプロジェクトであること、主導権は常にシモンズが握っていたことを明らかにした。また性科学者としての知見はシモンズがエリスを凌いでいたこと、掲載された症例はシモンズが主に収集した。

本研究ではさらに、シモンズとエリスだけではなく、シモンズとカーペンターの文通を分析することにより非常に大きな成果があった。シモンズとエリスの、変質論に関する見解の相違を浮き彫りにしたが、その見解の相違ゆえにシモンズはエリスに不信感を抱き続けていた。エリスには胸襟を開けなかったシモンズが、同じ同性愛者であるカーペンターとは率直に意見交換している。それゆえにカーペンターに宛てた手紙には、シモンズの同性愛についての重要な意見や見解が開陳されている。カーペンターとの文通は従来、無視されてきたものであり、この発見は大きな学術的意義があると考えられる。

さらにシモンズが考えていた、古代ギリシャの知見を同性愛研究に組み入れることの動機を明らかにした。それは、女性的として非難される同性愛に対して、軍人的マスキュリニティの要素を導入することでその非難をかわそうとしていたのであった。シモンズは『性的倒錯』に掲載されることを目指し、その大きな意義を確信していたにも関わらず、古代ギリシャ研究はエリスの独断で削除された。こうしたことから、シモンズの真の後継者はエリスではなく、カーペンターであると本研究では結論づけた。これら三者の人間関係に着目することで、イギリスにおけるまったく新しい同性愛史の側面が見えてきた。こうした発見を論文にまとめたが、この重要な知見を広めるために今後は国内外の学会での発表へとつなげてゆきたいと考えている。

ただし、モリソンについてはあまりにも資料が少なく、研究を深めることは断念せざるを得なかった。

ワイルド裁判後の同性愛をめぐる歴史資料となることを期して、ワイルドの書簡集を編集・翻訳した。これの刊行は2020年10月を予定している。これは、ワイルドを取り巻く人々の同性愛に関する見解や情報がリアルに得られる大変有益な一次資料である。とりわけ、その本に掲載した「内務省宛原型嘆願書」だけでも、従来の見解を覆す重要な事実を含む。学術的成果を一般書の形で刊行することは、社会への大きな貢献・還元になると考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 宮崎かすみ	4. 巻 19号
2. 論文標題 漱石作品における「泥棒」のメタファーと異性愛－人類学と略奪婚の系譜	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和光大学表現学部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.93-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮崎かすみ	4. 巻 18
2. 論文標題 エドワード・カーペンターの同性愛思想 ジョン・アディントン・シモンズとの関わりから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『和光大学表現学部紀要』	6. 最初と最後の頁 131-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮崎かすみ	4. 巻 17号
2. 論文標題 症例としての自伝的ナラティブと性的アイデンティティの成立	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『和光大学表現学部紀要』	6. 最初と最後の頁 107-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮崎かすみ	4. 巻 第14号
2. 論文標題 ワイルド裁判の歴史的位相	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『オスカー・ワイルド研究』	6. 最初と最後の頁 1 - 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎かすみ	4. 巻 第16号
2. 論文標題 名探偵ホームズと「生来性犯罪者」-変質論の系譜と推理小説への展開	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『和光大学表現学部紀要』	6. 最初と最後の頁 127-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki Kasumi	4. 巻 29
2. 論文標題 Camellias and Vampires: Reading the Spermataic Economy in Natsume Soseki's And Then	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of Japanese Culture and Society	6. 最初と最後の頁 230-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 9.78487E+12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 4件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 宮崎かすみ
2. 発表標題 第一次世界大戦と空虚な墓 キプリング「庭師」を読む
3. 学会等名 日本キプリング協会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎かすみ
2. 発表標題 ペイター、ワイルドから漱石へ
3. 学会等名 日本ペイター協会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮崎かすみ
2. 発表標題 「ペルセポネとディオニュソス」
3. 学会等名 日本ベクター協会第54回大会 シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kasumi MIYAZAKI
2. 発表標題 Soseki Reads Oscar Wilde
3. 学会等名 World Language and Literature of Boston University's Colloquium (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 宮崎かすみ他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 448
3. 書名 『文学都市ダブリン』	

1. 著者名 宮崎かすみ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 400予定
3. 書名 『新編 獄中記』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----